

中国新聞 平成28年1月30日

被災地の中学生

防災検定に挑む 城山北

2014年8月の土砂災害で女子生徒1人が亡くなった広島市安佐南区の城山北中の2年生約160人が29日、災害から身を守る知識を試す「ジュニア防災検定」に挑んだ。

問題レベルが中学2、3年生程度の上級を受検。雨量の傾向と土砂災害の危険性の関係や、大地震で帰宅困難となる場合への備えなどについて考える選択式と記述式の計12問に取り組んだ。事前リポート、事後課題の自由研究として取り組む防災シンボルマーク作りも含め審査される。

同検定は、東日本大震災を教訓に防災検定協会（東京）が実施。生徒会長の2年竹下咲音さん（14）は「災害はいつ起こるかわからない。自分にどういう対処が出来るかを考えることができた」と話した。